

令和 4 年度

優れた教育活動表彰

## 1 学校（12校）

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
松江市立古江小学校	丹 羽 隆	<p>平成28年度から30年度まで「算数授業改善推進校事業」、令和元年度から令和3年度まで「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業」の指定校として、計6年間にわたり、対話を通して考えを深め合う授業づくりを目指し研究に取り組んだ。</p> <p>対話を深める手立てとして教職員のコメント力と思考の可視化に焦点をあて研究に取り組み、研究の中で見えてきた有効なコメントなどを一覧化して教職員内で共有し、各教職員の授業改善に繋げている。また、子どもの声でつくる算数授業を開催しており、算数の課題に対してお互いの考えを伝え合うなど、それぞれの考えが深まっていく全員参加の授業を行っている。その成果の一つとして、令和2年度の島根県学力調査では、「算数が好き」と回答した児童の割合が極めて高いなど、同校での授業改善の取組が児童の前向きな姿勢に表れていた。こうした取組は、授業改善を進める実践モデルとして、他の参考になるものである。</p>
安来市立宇賀荘小学校	青 砥 玉 枝	<p>令和3年島根県社会科教育研究大会（安来大会）に向け、研究主題「人や学びのつながりの中で豊かに考え、主体的・協働的に社会に関わろうとする子供の育成」のもと、約3年間にわたり研究実践を積み重ねてきた。</p> <p>子どもに何を学ばせたいかを明確にし、単元を見通して学びをデザインするという視点で、全教員が研究授業に取り組んできた。また、同校では中高学年から複式学級となり、学級内の子どもに学びの差がある中、子どもの思考の流れを考えた単元構成を心がけてきた。その結果として、子どもたちは長期に渡る活動にも意欲的に取り組み、生き生きと学ぶ姿に繋がった。</p> <p>研究発表後も校内研究を継続して行っており、一層の深化・充実を図る取組は他の参考となるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
安来市立南小学校	青 山 巧	<p>令和3年島根県社会科教育研究大会（安来大会）に向け、研究主題「自分の言葉で表現し、ともに学び合う子どもの育成」のもと、約3年間にわたり研究実践を積み重ねてきた。</p> <p>研究では単元全体を見通すことができる「単元構造図」を用いた教育活動に取り組んだ。この構造図をもとに指導計画を立てることで、何をどのように学ぶかが明確になり、効果的な資料を精選できるようになるなど研究成果が表れている。子どもにおいても学習への興味・関心が高まり、学習意欲も継続していたと教育現場では実感している。</p> <p>研究発表後も校内研究を継続して行っており、一層の深化・充実を図る取組は他の参考となるものである。</p>
安来市立能義小学校	湯 浅 哲 司	<p>令和3年島根県社会科教育研究大会（安来大会）に向け、研究主題「豊かな関わりの中で、主体的に学び、課題を追究する子どもの育成」のもと、約3年間にわたり研究実践を積み重ねてきた。</p> <p>研究では、子どもが持つ、課題を解決したいという思いに応えるため、教科横断的な視点に立った年間単元一覧表を作成・活用した実践を行った。取組の効果として、教職員は担当する学年の年間の学習活動全体を捉えながら授業に取り組むことができ、子どもにとっても学びの価値や自己の成長に気付くことができるなどより深い学びへと繋がった。</p> <p>研究発表後も校内研究を継続して行っており、一層の深化・充実を図る取組は他の参考となるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
奥出雲町立高尾小学校	桑 山 悟	<p>平成25年度から子どもの表現力の向上・人前で物怖じしないたくましい心の育成・自己表現力の育成を目指した落語活動を10年継続して行っている。平成28年度からは、JRC島根県支部から講師を招いて防災教室を開催しており、防災教室で災害や避難所生活について学んだ児童は、被災地支援として落語と募金活動を合わせた「防災チャリティー寄席」を計画して多くの寄席で支援活動を行ってきた。さらに、令和元年度には、寄席で集めた募金を西日本豪雨災害の義援金として日本赤十字社に直接届け、被災者や関係者に落語を披露するなど支援活動の場を広げている。これらの活動を通して、人前で話す力の向上、防災知識の習得、様々な年代の方とのコミュニケーションを深めるなど、子どもたち自身も日々成長を実感していた。</p> <p>こうした取組は、児童の自己有用感を高める教育活動、人々の心を豊かにする教育実践であるとともに地域協働活動の事例として他の参考となるものである。</p>
川本町立川本小学校	星 野 明 洋	<p>同校は、令和2年度から人権教育研究指定校事業の指定を受けたことを契機に人権教育に力を入れており、「か・わ・も・と」の頭文字を取り、「か」らだを大切にする子、「わ」かろうとする子、「も」くひょうを持つ子、「と」もだちも自分も大事にする子の4つを目指す子どもの像として掲げ取組を進めてきた。</p> <p>年間を通した異学年交流活動を積極的に取り入れたことにより、休み時間に声を掛け合ったり仲良く遊ぶ姿が見られるなど児童が互いを思い合い、安心して学校生活を送ることができている。</p> <p>また、すべての教科で子ども全員が主体となり学習を進める授業を行うため、職員一人一人が子どもの実態に合った取組を考え、工夫し、実践を積み重ねている。こうした取組は、人権教育の実践として他の参考となるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
松江市立湖北中学校	遠 山 茂 樹	<p>平成29年度から30年度まで「学びの深（進）化プロジェクト事業」、令和元年度から令和3年度まで「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業」の指定校として、計5年間にわたり、子どもの主体的な学びをつくる授業を目指して研究に取り組んできた。授業改善を進めるために、全教職員が参加して湖北中生の強みや課題を洗い出し、育てたい資質・能力を設定し、次年度以降の全ての教育活動に反映させるなど積極的に改善を図った。</p> <p>活動実践として総合的な学習の時間では、地域の名産品の調査から、収集した情報の整理・分析を行い発表を行う授業を実施した。この授業の中で、子どもたちは積極的に学ぶ姿勢や、他者の発表に対して質問やアドバイスをするなど学び合いの良さを知ることに繋がった。こうした取組は、授業改善を進める実践モデルとして他の参考となるものである。</p>
益田市立横田中学校	兼 子 史 寛	<p>同校は学校目標を「ともに生きる～ちがいを認め合い、互いに支え合うことにより、一人一人が自分らしさを發揮できる学校～」とし、自律・共生・探究を合言葉に様々な取組を行っている。</p> <p>以前から、横田中学校区では地域ぐるみの子育てが推進されており、学校と地域、学校種を越えた連携を中心とした活動が充実している。令和2年度からは生徒会を中心にボランティア活動や西益田まちづくりの会（地域運営組織）と共に「灯火会」というイベントの企画提案に関わり、地域との連携をさらに深めることができた。その後も、地域住民を巻き込んだ様々な企画を発案し、中学生の視点から地域を元気にする活動を継続して行っている。これらの活動を通して、子どもたちはふるさとへの愛着、コミュニケーション能力、自己肯定感の向上に繋がっている。</p> <p>学校で学んだことを地域で実践し、地域での実践を通して学んだことを学校へ活かす取組は、社会に開かれた教育課程を実現する教育の実践モデルとして他の参考になるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
県立平田高等学校	小 林 努	<p>令和元年度から3年間にわたって文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業～地域魅力化型～」の指定を受け、商工会議所や島根県立大学をはじめとする地域の様々な機関と連携・協働し、地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」を推進した。これは高等学校を地域振興の核として位置づけ、将来の地域社会を担う人材を育成することを目的とする事業である。</p> <p>本事業を進めるにあたり、学校と地域との組織的な協働体制が構築され、地域と協働した質の高い体験的・探究的な活動を展開することができた。その結果、生徒の地域貢献・社会参画の意識が高まり、将来地域に積極的に関わろうとする生徒が現れるなど効果が見られている。この事業を通して実施した地域協働学習は、先進的な事例として他の参考となるものである。</p>
県立益田高等学校	長 岡 正 和	<p>平成16年度から文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定校として、18年にわたり地域創生に資するイノベーションを支える科学技術系人材の育成を目指して全校体制で教育プログラムの実践に取り組んでいる。</p> <p>取組の中では、学校設定教科「サイエンス・プログラム」を設置し、教科・科目の枠を越えて様々な取組を行っている。取組の一部として、SDGsの視点から地域の課題や発展について探究・提案を行う活動や、地域や小中学校の科学への関心を高める活動を行っており、生徒・児童が地域貢献や科学に興味を持つなど効果が表れている。</p> <p>これらの取組は、各種研究発表会、科学コンテストでの多数受賞、進学実績の向上などの成果にも繋がっており、事業の実践として他の参考となるものである。</p>

学 校 名	学校長氏名	表 彰 の 理 由
県立隱岐高等学校	陶 山 裕 史	<p>同校は地域の特徴を活かし、平成22年度より隱岐ジオパークを題材とした学習を行っている。平成28年度からは見学型の学習スタイルから地域課題解決学習に変更し、地域の方々や隱岐世界ジオパーク推進協議会（現 隠岐ジオパーク推進機構）や行政と連携し、地域課題解決案を提案する学習や隱岐の特徴をビジネスに活かす学習を行っている。</p> <p>この学習の中で、特定外来生物オオキンケイギクの防除と地域住民の啓発に取り組んだ生徒たちは、インドネシアで開催された第6回アジア太平洋ジオパークネットワーク国際会議で取組内容を英語で発表し高い評価を得た。また、新ブランド開発を目的とした隱岐藻塩椎茸プロジェクトでは、全国高校生マイプロジェクトAWARD2019においてベストオーナーシップアワードを受賞している。</p> <p>地域への愛着を育み地域を担う後継者育成にも繋がるこうした取組は、今後の総合的な探究の時間の実践として他の参考となるものである。</p>
県立益田養護学校	八 東 政 義	<p>同校は地域に根ざした教育活動を開校以来展開しているが、近年さらに力を入れ、地域との連携・協働に取り組んでいる。特に近隣の公民館との連携により、地域のひと・もの・ことを活用した教育活動を行っており、地域住民が先生となり児童生徒に指導してもらったり、高津川で鮎つかみ体験と一緒にしたりするなど地域と連携した活動が盛んとなっている。</p> <p>高等部では地域への貢献を意識し、作業学習や総合的な探究の時間で地域と連携した様々な活動に取り組んでいる。具体的には地域の農家での収穫作業、高齢者宅での清掃活動、保育園や高齢者施設でのふれあい活動を行っている。農家での収穫作業では浜田養護学校高等部と共同で作業を行い、収穫方法を教えてあげるなど他校と交流を深める活動も行っている。</p> <p>このような活動は、学校と地域との連携・協働の実践として他の参考になるものである。</p>

(注) 上記の掲載順は、原則、小学校・中学校・高校・特別支援学校、かつ建制順による。

## 2 団体（1団体）

団体名	代表者職・氏名	表彰の理由
安来市教育研究会 中学校社会科部会	安来市立第三中学校長 原 義昭	<p>令和3年島根県社会科教育研究大会（安来大会）に向け、研究主題「深い学びにより協働して課題を追究する生徒の育成」のもと、約3年間にわたり研究実践を積み重ねてきた。</p> <p>研究では、単元で育成したい力や、働きかせたい見方・考え方を明確にし、子どもが自らの学びを振り返ることができるようなワークシートやノートの在り方について試行錯誤を重ねた。成果物である単元構造図などは授業改善の取組として実践モデルとなるものである。また、単元の学習が終わった後、子どものワークシートを持ち寄り、どのような力が育成されたか研究し、今後の授業や子どもの学習にフィードバックする研修も実施している。</p> <p>研究発表後も校内研究を継続して行っており、一層の深化・充実を図る取組は他の参考となるものである。</p>

### 3 個人（8名）

氏 名	所属名・職名	表 彰 の 理 由
石 飛 秀 次 いし とび しゅう じ	県立松江工業高等学校 実習助手	<p>同実習助手は、工業教育とくに電子機械制御の分野で熱心に教育に取り組み続けている。出雲工業高校在任中から、高校生ロボット競技大会へ出場するロボットの製作に生徒とともに取り組み、松江工業高校へ異動してからも卓越した指導力により、平成24年よりほぼ毎年全国大会への出場を果たしている。令和3年度の全国高等学校ロボット競技大会では、指導した学生チーム（天叢雲）が現段階で本県最高順位である優良賞を獲得するなど成果を挙げている。</p> <p>生徒にものづくりの基本的技能、プログラミングを丁寧に指導し、生徒のアイディアや創意工夫を活かしたロボット製作を指導する取組は本県の工業科教育の充実・発展に資するものである。</p>
内 田 裕美子 うち だ ゆみこ	松江市立第二中学校 教諭	<p>平成19年に松江市立第四中学校において、柔道部の指導に携わったことを契機に生徒の主体性を重んじた効果的な指導方法の研究・実践を行ってきた。第四中学校在職中には、3度全国大会に出場し、優勝1名、入賞2名の成績を収めた。その後、現在の松江市立第二中学校へ異動した際も、優勝1名、入賞2名と好成績を残し続けている。</p> <p>また、柔道部指導のほか、校内では特別支援教育の中心的な役割を担っており、管理職や他教職員からの信頼も厚い。近隣小学校からの特別支援教育に関しての相談に対応するなど、勤務校のみならず校区内の特別支援教育の充実にも貢献している。</p> <p>同教諭の取組は、県内の柔道競技の競技力向上に貢献するとともに、特別支援教育においても次世代を担う若手教諭の手本となっている。</p>

氏名	所属名・職名	表彰の理由
かん ば まな み 神 庭 真 美	松江市立古志原小学校 教諭	<p>平成28年度から3年間「算数授業改善推進校事業」、令和元年度から3年間「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業」の指定を受けた古江小学校に平成27年度から7年間勤務した。平成29年度、30年度は、リーダー教員として意欲的に授業実践を進め校内の若手教員の模範となるとともに、授業改善に向けた校内研究の推進にも積極的に貢献した。</p> <p>また、令和元年度からの授業改善プロジェクト事業でも、事業の中心人物として関わり、令和2年、3年と2年連続して松江市教育研究大会での授業公開に携わり、松江市内の学校の参考となる研究発表に大きく貢献した。</p>
と じょう ち か 登 城 千 加	県立江津高等学校 教諭	<p>平成29年度から30年度の2年間、島根大学教職大学院への派遣教員として生徒の読解力向上を研究課題として研修に励み、研修終了後から大学と連携を図りながら生徒の実態に即した生徒主体の授業形態の構築と社会生活に有用な読解力の育成を目指した授業づくりに取り組んだ。</p> <p>令和2年度に在籍した三刀屋高校では、県の「新学習指導要領実施に向けた教科研修事業（現代の国語）」の研究指定を受け、責任者として三刀屋高校国語科全体の授業改善に取り組んだ。これまでの教材に依存した伝達型の授業から生徒同士の対話を中心とした授業を実施するように努めたほか、タブレット等のICT機器の活用や思考力を高める問題作成に国語科全体で取り組むべく、教員間で積極的に情報共有を行った。研修事業の成果を広く県内の国語科教員に伝える取組や、さらなる知見の獲得に意欲的に取り組む姿勢は国語科教員のみならず他の模範となるものである。</p>

氏名	所属名・職名	表彰の理由
中村 美楠子 なかむらみなこ	県立吉賀高等学校 教諭	<p>令和元年度より吉賀高校に勤務しているが、前任校の大東高校勤務時からキャリア教育担当として先導的にキャリア・パスポートの導入に取り組んでおり、現在もさらに活動を発展させている。</p> <p>吉賀高校では町の小中高一貫キャリア教育「サクラマス・プロジェクト」と連動させた教育活動を展開している。令和3年度には県教委キャリア・パスポート活用事業推進校総括担当者を務め、その実践成果を広めようと、県内外に問わず全国研究大会のシンポジストや他校教員研修会の講師として活躍している。さらに青山学院大学等との高大協働研究も深化させ、本格的な課題解決型学習を推進し、地域との連携・協働にも大きく寄与している。</p> <p>他の教職員の模範となるだけではなく、指導方法の研究、学校組織の活性化を図るための創意工夫にあふれており、本県教育の充実・発展に資する取組に尽力している。</p>
錦織 充宏 にしこおりみつひろ	松江市立第二中学校 教諭	<p>平成19年に大田市立第二中学校において、剣道部の指導に携わったことを契機に、その後複数校で剣道部の指導の研究・実践を行ってきた。剣道部の顧問として、生徒のマナーの向上及び健康・怪我の予防を第一に考えた指導を実践しており、計画的かつ短時間で効果的な指導方法の探究を継続して行っている。技術指導では、ＩＣＴ機器を効果的に活用することで、生徒にとっても分かりやすい指導を行っている。このような指導の成果として、令和3年度には全国中学校総合体育大会（剣道女子団体・個人）への出場を果たすなど成果を挙げている。</p> <p>また、剣道部指導のほか、校内では教務主任を務め、学校運営の重要な役割を担い、その熱心な働きぶりから管理職や他教職員から信頼も厚い。同教諭の県内の剣道競技指導力向上に寄与する取組及び学校運営への取組姿勢は他の模範となるものである。</p>

氏名	所属名・職名	表彰の理由
野田和江	出雲市立平田小学校 教諭	<p>同教諭は、長きにわたり特別支援教育の充実に尽力しており、出雲市特別支援教育推進委員や出雲市教育支援委員会専門委員として、特別支援教育の中心的な役割を担ってきた。また、近隣学校からの特別支援教育に関する相談にも対応するなど、勤務校のみならず地域の特別支援教育の充実・発展に貢献した。</p> <p>県教委が進める「しまね特別支援教育魅力課化ビジョン」においても、小学校における教育環境の充実や切れ目ない支援体制の構築に貢献するとともに、後進の育成にも積極的に関わる姿勢は特別支援教育の推進及び他教職員の良き模範となっている。</p>
山本悦生	津和野町立津和野中学校 教諭	<p>同教諭は、平成6年に中学校社会科教員として採用になって以来、益田管内の中学校7校を歴任している。その間、担当する社会科において生徒が主体的に学習に向かえるように、地域素材や時事問題の教材化に取り組んだり、NIEや話し合い活動を積極的に取り入れた授業を構築するなど実践を続けている。さらに、その実践をもとに教育論文や著書の発刊も精力的に行い、日々研鑽に努めている。</p> <p>平成27年には、教育実践研究論文「地域教材を取り入れた歴史教育の試み－益田市の姿を通して中世の時代像をとらえる－」が日本教育公務員弘済会島根支部主催教育研究論文募集において特選となるなど、その高い授業構想力、指導力への評価は高いものである。今後も益田管内の社会科教育のリーダーとして他教職員の模範となるものである。</p>

(注) 上記の掲載順は、五十音順による。